

寄稿 1

「紀の国わかやま国体・ 紀の国わかやま大会」 の開催にあたって

和歌山県 国体推進局 総務企画課長

稲 葉 信

1. 紀の国わかやま国体

(1) 基本目標

いよいよ9月26日(土)から第70回国民体育大会「紀の国わかやま国体」が開催されます。会期は、10月6日(火)までの11日間で、本県での開催は、昭和46年の第26回国民体育大会「黒潮国体」以来44年ぶりとなります。県では、この半世紀に一度の大イベントを成功に導き、県勢の発展に繋げていくため、「和歌山を元気にする国体」、「国体を契機としたスポーツの振興」、「活力に満ちたふるさとづくりに寄与する国体」、「和歌山の魅力を全国に発信する国体」という4つの基本目標を掲げ、「躍動と歓喜、そして絆」のスローガンの下、活力に満ちたふるさとづくりに寄与する大会、和歌山の元気・活力・躍動感を全国にアピールする大会、参加されたすべての人が躍動し、歓喜する、そして、交流が深まるような大会を目指し、市町村と一体となって開催準備を進めています。

(2) 和歌山らしさを創出した会場づくり

本県は、豊かな森や清流、美しい海岸線など豊かな自然に恵まれています。開閉会式会場では、会場全体で「和歌山らしさ」を感じていただけるよう、式典会場までの動線を「森のみち」、「海のみち」として整備します。

「森のみち」エリアでは、紀三井寺公園内の既存の緑を最大限活用するとともに、県産材を活用した装飾を施し、木のぬくもりが感じられる会場づくりを行います。県産材の歓迎ゲートや、みかんの木、高野槇など本県を代表する樹木を来場者動線に配置し、「木の国」和歌山をアピールします。

さらに、「海のみち」エリアでは、「海の家」をモチーフにしたデザインテントを用い、多くの人で賑わう海辺をイメージさせる装飾を施した「きいちゃん広場」を設置します。「きいちゃん広場」では、和歌山ラーメンやご当地丼など、和歌山ならではの味覚を楽しんでいただける飲

歓迎ゲート



高野の森



受付エリア



おもてなしエリア



食ブースや、梅・果実の加工品をはじめ、お菓子などのお土産物のほか、きいちゃんグッズ、スポーツ用品等の販売ブースなどを設けて、本県の魅力を発信するとともに、来場者をおもてなしします。

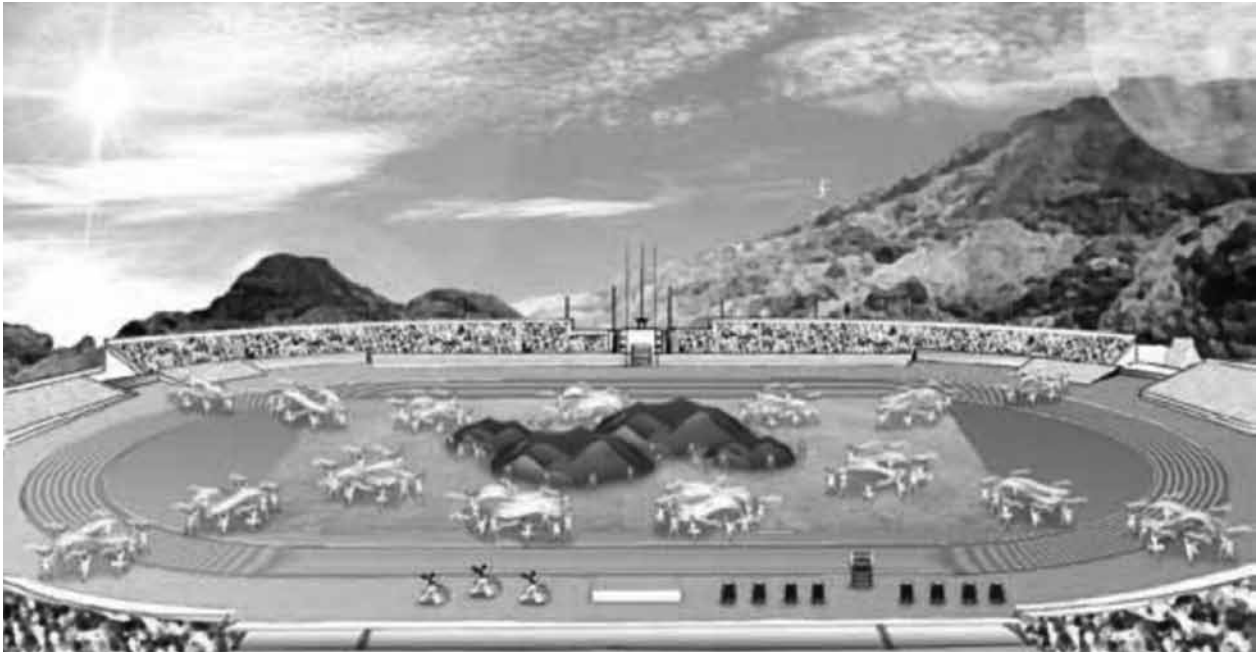
(3) 総合開会式

総合開会式では、大勢の県民のご参加の下、簡素な中にも創意工夫を凝らした演出で、和歌山らしさを表現します。特に、総合開会式の見所の一つである「式典前演技」では、「紀の国のみち」をテーマに、本県の自然と人々の中に息づく「森」、「海」、「心」、「未来」の4つの「みち」を、県民のパフォーマンスや歌でストーリーに仕立てて、本県の魅力を全国に発信します。

第1章「森のみち」では、山伏や炭琴奏者、詣で行列パフォーマー、森パフォーマーなどにより、自然の生命の源、寛容の心とよみがえりの力を持つ高野・熊野の森を表現します。第2章「海のみち」では、和太鼓奏者や海パフォーマーなどにより、未知の世界へ挑む心を育んだ

黒潮の海を表現します。第3章「心のみち」では、本県にゆかりのある偉人を紹介し、多くの人々を思いやり「人を愛する」気持ちに昇華した「心のみち」が、今を生きる私たちの中にも受け継がれていることを歌やダンスで表現します。第4章「みちは未来へ」では、笑顔パフォーマーやイメージソングダンサーを加えた出演者全員が登場し、未来へと続くみちに希望を込めて、歌やダンスでフィールド全体に笑顔の花を咲かせます。

このような式典前演技やオープニングプログラムなど、総合開会式には、たくさんの県民の皆様にご出演いただきますが、出演者の皆様は、厳しい暑さの中、練習を積み重ねて下さっています。加えて、坂本冬美さんや藤原紀香さんなど、和歌山ゆかりの方にも多数ご出演いただいて、総合開会式を盛り上げていただきます。このように、和歌山県民の力を結集して創り上げる総合開会式を、是非とも快晴の秋空の下で迎えたいと祈るばかりです。



(4) 男女総合優勝を目指して

前回の黒潮国体では、水泳、体操、柔道、相撲など 10 競技で競技別総合優勝に輝き、当時、歴代第 3 位となる高得点で天皇杯を獲得しました。今回の「紀の国わかやま国体」では、天皇杯・皇后杯の獲得を目標に、「ゴールデンキッズ発掘プロジェクト」による少年選手の発掘・育成をはじめ、「エクセレントコーチ」など外部指導者の派遣、トップコーチの招聘、選手の確保、医・科学サポートの充実など、競技力向上のための総合的な対策に取り組んできました。

その結果、平成 24 年の岐阜国体で 21 位と、前年の山口国体の 43 位から大きく順位を上げると、その後も平成 25 年の東京国体で 18 位、昨年の長崎国体で 15 位と、着実に順位を上げてきており、対策の成果が現れてきています。

また、本年 1 月、2 月に開催された「2015 ぐんま冬国体」でも和歌山県勢が大活躍しました。「2015 ぐんま冬国体」は、「紀の国わかやま国体」と得点が合計される重要な大会でしたが、成年女子のスピードスケート 2000m リレーで、北海道、長野県などの並み居る強豪を押さえて見事 2 位入賞を果たしたのをはじめ、スケート競技に出場した全員が入賞するという見事な活躍で、冬季国体で本県史上最高となる

66 点を獲得し、総合順位で 22 位と好スタートを切ってくれました。また、得点獲得こそならなかったものの、本県アイスホッケーチームの健闘も光りました。県内にスケートリンクがなく、県外で深夜に練習を積み重ねてきた選手達、大きなハンデをはねのけて、近畿ブロック予選を 33 年ぶりに突破し、本戦出場を果たすと、本大会でも本県アイスホッケー史上初の勝利を挙げる快挙を成し遂げてくれました。

このような「ぐんま冬国体」での「チーム和歌山」の頑張りは、「紀の国わかやま国体」で天皇杯・皇后杯の獲得を目指す選手達に大きな力と勇気を与えてくれました。春以降も、本県の選手達が国際大会や全国大会で優勝や上位入賞を果たしており、秋の本番に向けて「チーム和歌山」の士気は高まりつつあります。どうか県民の皆様も「チーム和歌山」の一員として各競技会場にお出かけいただき、和歌山県選手団に熱い声援を送って頂きたいと思います。

2. 紀の国わかやま大会

全国障害者スポーツ大会は、障害のある選手が競技を通じてスポーツの楽しさを体験するとともに、国民の障害に対する理解を深め、障害のある方の社会参加の推進に寄与することを目的とした障害者スポーツの祭典です。第 15 回

大会となる「紀の国わかやま大会」は、10月24日（土）から26日（月）までの3日間で開催され、「可能性へのチャレンジ」、「心温まる紀の国わかやまへ」、「支え合う未来へ」を基本方針として、5市2町で正式競技13競技とオープン競技2競技が行われます。自然あふれる紀の国わかやまで出会い、ともに楽しむことを喜び合い、障害のある人もない人も参加者みんなで一体となって創りあげ、互いの絆を深める大会、選手や大会を支えるボランティアなどみんなが笑顔で元気に参加できる大会、いつまでも参加された方々の心に残る大会にしたいと思います。このため、すべての人が利用しやすいようにユニバーサルデザインに配慮した会場づくりを行うとともに、競技が開催される7市町の小学校で手話教室などを行う「心のバリアフリーの輪を広げるプロジェクト」をはじめ、特別支援学校の児童・生徒が作成した応援のぼりなどによる会場装飾、全ての選手への応援メッセージカードの作成など、障害に対する理解を深めるための和歌山オリジナルの取組も進めています。「紀の国わかやま大会」でも、国体と同様に会場へお出かけいただいて、選手達に温かい応援を送っていただきたいと思います。

3. 県民総参加でおもてなし

前回の黒潮国体は、「花いっぱい黒潮国体。開会式、県民運動、民泊等、創意と工夫により、参加者から好評を博した。」と日本体育協会の資料に記されています。今回も、前回に負けないおもてなしいっぱいの国体・大会にしたいと思います。「紀の国わかやま国体」では、全国から選手・監督約22,000人、大会関係者や観覧者を含めると約70万人が、また、「紀の国わかやま大会」では、47都道府県と20指定都市から選手・監督約5,500人、大会関係者・観覧者を含めると約9万人が来場されると見込まれています。この方々が大会期間中、気持ちよく競技し、観戦・観覧していただけるよう

に、県民総参加の心のこもったおもてなしで迎えたいと考え、花いっぱい運動やクリーンアップ運動などの県民運動を積極的に展開しています。

(1) 花いっぱい運動

開閉会式会場や競技会場、主要道路、駅、空港などを花や緑でいっぱいにして来県者をお迎えします。本県では、農業系高校などで育てた苗を、保育所や幼稚園、小・中・高等学校をはじめ、花づくり団体や自治会へリレーして、多くの県民の皆様には咲かせていただいた花を会場等に飾りつける「花のリレー」を全ての市町村と連携して実施しています。開催年となる本年度は約30,000基のプランターで会場等を飾り付けることとしています。県民の皆さんもご自宅の花壇等にきれいに花を咲かせて、来県者の目や心を和ませていただけたらと思います。

(2) クリーンアップ運動

ゴミひとつないきれいな和歌山で来県者をお迎えするため、「県内一斉クリーンアップデー」や「クリーンアップ運動実施期間」を設けて、多くの県民の皆様のご参加をいただきながら、運動を展開しています。平成25年度から、市町村が行っている既存の清掃活動や道路管理者が行っている「紀州路クリーン大作戦」とタイアップして取組をスタートし、26年度からは、河川愛護団体の皆様にもご参加いただくなど、取組の拡大に努めてきましたが、開催年となる本年度は、これまでの活動に加えて、開催直前クリーンアップ運動を実施し、地元の皆様にもご協力いただきながら、開閉会式会場となる紀三井寺公園付近を特にきれいにしていきたいと思っています。県民の皆さんも、ご家庭や職場で「ゴミのポイ捨てをしない」、「目に付いたゴミは拾う」など、身の回りで簡単にできることから「クリーンアップ運動」にご参加いただければと思います。

(3) 県民参加の大会運営

紀の国わかやま国体・大会の運営には、受付・案内、会場整理・美化、式典補助などの運営ボランティアや手話、要約筆記といった情報支援ボランティアなど、県民の皆様のご協力が欠かせません。このため、平成 25 年 9 月から、運営ボランティア延べ 4,900 人、情報支援ボランティア 600 人を募集しましたが、先に国体・大会を開催した県では、ボランティアの確保に苦労したというお話しをお聞きしていましたので、大変心配していました。ところが、本県では、12 歳から 88 歳までの幅広い年齢層の方々からご応募をいただき、3 月末までに運営ボランティア延べ約 6,000 人、情報支援ボランティア 741 人を確保することができました。特に、応募者のうち約 7 割が個人の応募で、かつ、ご本人が自発的に応募して下さったものであり、県民の皆様の両大会への期待の高さを感じられて、本当に有り難く思っています。本番では、ボランティアの皆さんと一緒に、まさに県民総参加で心のこもった大会運営を行いたいと思います。

(4) おもてなし運動

「紀伊山地の霊場と参詣道」の世界遺産登録 10 周年を契機に昨年実施した「和歌山Destinationキャンペーン」や「高野山開創 1200 年」、紀の国わかやま国体・大会など、本県では、全国から注目されるビッグイベントが続き、既に多くの方々が来県されていますが、この機会を捉えて、観光部局と連携して県民のみなさんから自ら行う「おもてなし宣言」を募集しています。「おもてなし宣言」は、来県された方々に「和歌山に来て良かった」、「もう一度和歌山を訪れたい」と感じていただけるように、自ら取り組む「おもてなし」を宣言し、実践していただくものです。

「紀の国わかやま国体・大会」においても沢山の方々が県外から来県されます。両大会の運営に携わるスタッフやホテル、旅館、飲食店、

交通機関の方だけでなく、選手と接する全ての方が、選手や監督、役員の皆さんに、「おはようございます」「こんにちは」と笑顔で挨拶し、続けて「頑張ってください」、「お疲れ様です」、「気をつけてお帰り下さい」、「またお越し下さい」など、思いやりの一声をかけることで、来県される方々が気持ちよく競技し、観戦・観覧し、本県での滞在を楽しんでいただけるようにしたいと考えていますので、皆様のご協力をお願いします。

4. 国体・大会のレガシーを後世に

平成 17 年 10 月の和歌山県体育協会臨時総会での招致の決議に始まり、県議会臨時会の決議、日本体育協会、文部科学省への開催要望、施設の整備や会場計画づくりなど、10 年間に及ぶ数々のプロセスを経て、いよいよ第 70 回国民体育大会「紀の国わかやま国体」を迎えます。国体・大会を開催するためには、施設整備や大会運営などに多額の経費が必要ですが、それを上回る大きな経済波及効果も見込まれています。また、「紀の国わかやま国体・大会」の開催は、整備された道路や競技施設だけでなく、競技力の向上、競技の指導体制の充実、県民総参加で創り上げたおもてなしの精神、何事にも果敢に取り組む勇気、やればできるという自信など、私たち県民に大きな遺産を残してくれるものと確信しています。

私たちは、「紀の国わかやま国体・大会」の開催を一過性のものに終わらせるのではなく、両大会を通じて得た遺産を明日の和歌山づくりに活かしていかなければなりません。そのためにも、まずは県民の皆様に、ボランティアや県民運動への参加、式典の観覧、競技の観戦など、いろいろな形で国体・大会に関わっていただきたいと思います。

さあ、いよいよ「和歌山を元気にする」一大イベントの開幕です。